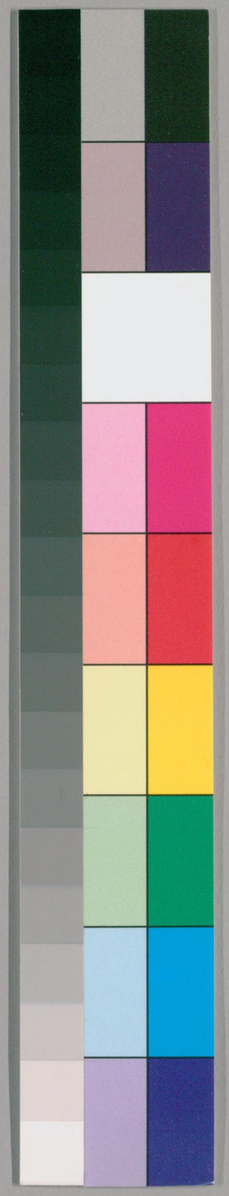
WA 7
45
5 止



国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

WA 7
45
5止

闕疑抄

五

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

根岸信蔵氏寄贈

闕疑抄巻第五

帝国図書館蔵書

むかし男ありけりいとこわるしき
すき物をもりのちうおとありけり
かのもれこにはうみのうねとそきくな
をこそくわかうとうおうくんしやも
れをもろ我心面れおとこのもれをとそひ日ふ作
りおこをさわくふかのれとふいとつくくをのき
こゆふるをは今まてたまそねいこりのも
も男人をはうこをはへまりのみるんありをろとそ
ろうしてよみくふれ里をる時八れにるんみをる
それおとこをふ我よくり業平の女我離別する
なわぬにおとこおあまを行通とをる人お嫁をれともも

乃脇のみうわ道にはゆへ乃男、このかたへとゝきく
いひかくれ也女うたよえかくよ人なまはえをうよ
てといふありその男んをありと恥
なりうしていい我志なをらし一その俊なわ漏乃字
の稼図郷説よ哺畔の畔字と見たまありあさ
者里て読て屋ふすり雨説何ゆくりと情説あり組
情説中時まてて漏一てとよ名わ兵編一てせ
落着一てみるる一究りよ
秋乃よい春日志ふくりのあれや
かひ見よあわやちへまさふらんへ喜をそりと乃男よ
秋をい今乃おをこうたとふ
たとふまありれの夜は喜日を忘ふくり當季ふ

んうちはゆへありと喜さきい秋れそのなわ
うすこり常やはさらんとい我うる今乃男
はさまてなりふ空なちへいみ里なり
とるんよりりる女うへし
ちこれ秋ひとつのえるりむうふめや
をみちも花をとをりこうちまは
秋ふくわはをそを一乃春ゆはをふまー
されともよをたちかへ男のこ後い
いつまもわこなふをのなちふみ紙つまんする
ちうあれいはこよ世裏乃すみ
事みくいなれなもさちなこ
こひやとなわ

ひと二条乃后ゐ
女乃ほかうまつはをつゝみうゐ
里をわいつてりのうへをたゝ
くなりひはめたるすすおし
をまゐんかいとものひそ
物うちなをしておもこ
二条后ゐはうまはく男業平也ゐみなと
ゐるこゝく忠仁公ゐ家私
りませはもうへくはゝ
はゝる女二条后のはかうへ
なわ思ひはめたるすんう
ひあゐりゐ忘ハはもわぬ沼河

へたはくせきゐいまもやめく
このうゐりめてこわひろ
七夕いとへまれゐ乃契り
かへにおふものあり我中
ひこかにはさわてうかし
なり今はへゐはるをお弦
はゐ奇りめてくのひり
りうまるゐ要也と云すう
ひとおをこありりゐ女を
へりりわいもまゐあ弱もこ
思ひまんやうくわれとお
ゐ月おをらりりゐ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

ぬたけいてきふぎちゃ、ゐいひをこ
乃ころろもの一男にのさをもとり
時をいとあつ一をこ一秋風し
らすありんをいるりそり秋あつ
一こそわそのんのりとへいう
ちいてきうけるさわけまいば
うおむうへみさそちまたは
ちをひろこせて京城よみてのき
岩末み一あ一筋い人姫本名ん
りろ君見み六月十五日とはの
自也分ふうちもとれふ一
月中自笑氣乃時分分もく

ぬるなまいひのをんなめ
きさと作病するありをんのりをみいうんを也
とそくせちいてきよけの業平のりをゆうん
ぜろなとは舌いてをるありさまへ女乃をとひ
ともむひ我座なろうえてのそれをみち紅葉
せん時分うあ一ひされとを
りのあれいさを有る一
秋うけていひ一なろもあ一
末葉ゐちく一ろうありろれ
秋風さいはまうなんひあそんと契をするあと
のえをいつよ一く一ろ以なり本乃葉ふり一く一ろよ
ういこのをのちりはもはいあさくあるもの

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

ゐりそれあとくゐりとにをゆよもていみゐり
とうよをおてうーあうろ人ゑ
ていみにくゐうくゐちにゑまてそうくよく
てやあんあうくてやあうくんのよーーをそうん
上乃詞う奇を書にきそをこをうゐてて
あーこうわんおこをいあまう我ゐまといふ前ゐ
お遠乃やうなわされうを書てうれまうやうまは
あうーに書にゐてをおてあうわあうくやまといふ井
をきくゑそまを今をこをうれといふせそやう
てれちうふまそもうにやいいひれこをれ
うふまていもうにと云あふへしけ発法わうりの
なわ能こ後をにきてみふわをーよくてやあうーんあ

ーきてやおらんいふーーをそうす薬草の女
乃り未我もうねてよきさ風ゐらんあーきさ風
やらん何なる不うねるやうんあるやうは
もうにやいうのなわ
かのおとおくなまの乃にうてをうちてるんろひせ
なふむくけきうんのろひおといおふりの
まやあらんれわぬそのまやはらんいまあうは見め
そいうふる
海士乃さうてのよ我見新やはなまの乃さうて
とも人を呪咀するをいて地神第四代彦火今出
見尊と申 称乃このうんや国降命を申 おの
まーくわは三称わちうへをーなうふときは

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

いまひきはめてものする方可然歟むくつけ
はなそゝきと云ふ事業平朝臣我のみひるまを
我をいふなりけりあはなとも云ふ事あくまの
てゐりおみつもあんとおりひていふまり
ひ物語の始の方にも書入れ
とも詞花云歟を歟といへきへうらみて
そこうん歟付るうら但人のおねりもそ
ゐきり蠢むくめく愚見りうの字をむさきう
此俊うれよりひうむく
なを拾遺きといひてこの始
むかりのみれなひまうら
うわきり四十賀九条の家のく
なわをうれきな

勅撰云昭宣公基経貞観十四年八月廿一日右大臣
尤大将三十一貞観十七年四十歳業平十九年正十
五位中将元慶四十賀帰川右大臣家九条うなわ
四十賀八貞観十七年也甲斐守任也なお拾遺抄ちの
撰者ちのひくもれをひらく入
んといふあるみちまうふうな
古今集中七賀の要うへうちをうひくもれう
きりていのをこそぬやうありあま今老乃
業へまな道乃まうふやうあもをよめりうると云のの
字を月乃ちかと也歟にもそよをう後撰宝歌

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

も良経にうちきまろか面白さと洋也…
…ゝ…ぬれおはひぬうちきことやゆるあけ
里はうまの俗おとこなる月りるりむめつ
うらえよきゝ…ゝ…ゝて俗ゐるとて
太政大臣いも仁公也勘物云忠仁公て安元年二月
十九日大政大臣五十五四月廿日従一位二年十
一月摂政清和の祖　同二年従
りけうを竹ふとき摂政…竹へまうくて奥觀
十四年九月三日薨六十五堀川の大政大臣とも
み深房乃おとゝもや…也忠仁公い謡く良房也
我うのむ志のゝめみやおれ兒けは

時…をまろぬりのよやありき
作者をよめり今なるりはハむめ…
すさまいとき…をまるぬや
とも雑をかくして駄りよめ
えうためりおれは兒をとゝ
古今集第十七雑　奇上題しらず　よみ人もしらと
あわ文字かまわなゝと有て右ほよわるんのり
えくゝ受けなゝ乃おなむ俗うゝ地さゝれなるりやを
忠仁公乃詠草なをよあるうゝ
うんてまわさるをいとかし…あくおのうわ
まひてけうひりろくなまる人をそわ
ゝ言を感して使り源あと妙へるなり

むすこ右近の馬場ひきはじめの日むすこ弁うたてわけうるまゝ女のかゝれもてそれもわかうゝへことをまゝ中なりくるゝとのみてあるを

むすこの事和訓の一の雑俵とそ称するやうみゝとゝを秘すへきうみおのれ欲一条より右まのかさい右近そまこゝろあいまいうんなわ無事ゝ居うゝあゝてほう弁まほうの弁とそた右近来ゝ二ひるよりまてうひるすなわ二日いさあんあゝてほうひ四月いうこんのあゝてつゝひ五日いさあんのまてほうひなりおまゝ我ひゝわの日とりおかいはをほうひれ時

全人とも褐をひきはゝわくさうる程りひゝるまとゝ云なりおゝてほうひ同散ゝれとうまいうと儀式こうりなまいまそつゝひをひゝるまといふ賀茂の急法ゝとゝて競るいゝきまやう我用のあとも段段恩寺殿右近馬場うゝれやゝとて近来中少将ゝ参座する不なり業平ゝ女ゝれかの車のとをそれよ座うまゝ狂言そくもうるもうゝれをみうとゝ見ういさむるもいうゝ和物絵ゝ日中ゝ見物ゝゝとあうえをうゝ見ゝをおゝ我ゝもぬ人の立ゝくい

おやなくうふやなうめくうさん
古今集第十一恋部入うわ詞書い古歌の
る場のひなもれ日むうひうりてうわをう事
れ下をそれうわ女のあかれのうり見てそれ
え後てつうわ——をうた玄乃業平的足やあり
要乃んいそ乃うりうわれうりそれ人
をうまうさけまいわやなくうふやなうめくう
さんとあうわやなくいう事なくまうこやくなな
なそいう俊なる　あよかへてあやなを苑をむ
むうおいけらいはう乃玄をわまいて
のを
ふるうまうわ乃うわ玄あくわきていうん

おりひうこうまうへなわれ
そも古今十一うり入うわ詞人まうた乃玄やあり
さてんい知とをまうたきふとおーこひ
ちいまうなひうこうまうちはへあれという大和
物語まれ此亦お遠せうわ玄のうふのおうめやと
てう玄ら玄うおれ此うあるれとをすてに古今うり
ハうれうへうたなおふへうす
乃ちいそれをまうり——をわうわを事あう
のうりあひうれとうりうな此をわうわを事あう
むう——をとこは源慶乃はさ
やんあとうれんの此つか新

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

如草とや云ていとさせたまへ
清涼殿乃うし飛かひすりあさきに清涼殿と号
を清涼殿とうめとをは涼殿とよみ付さうしさ殿
はは殿のわをひなわやんめとあ義は房とまとも
ゐ一忘草をきのみとをいみとて葉平乃通ふ不
まやのうれんハ葉平通一わおやぬらん
されとをな我恋みすーみくいはまてこあらん
すらんといひけたるなわ恋草乃てる恋哉す
書よ恋一て苔よわ恋草同書也ひ乃末れ
葉にみたるをきのふくさいひむと利葉りる
たるをわをまくさと常一る云也されとをさ乃こ
くさ乃かくもなをは我たは乃てやんなたく一ま
こ名也はかみて一ておくをきさせる
みもれ乃一古やれ折葉乃草の名よ我つくく名
はまて一まこ名とやもとわは説りくいあまれ
忘草をいれてもくるしわをまくさ
りをまきれふはは野色とみ忘らめと
あは志のふりりちをうのおとなこたるん
我ふまるまはまをまされとをきのひ中ををまを
とりふなるこのこいはまをきのひ中ををまを
れくさまれあ一は忘ふくさなわ我をれを野ろ
乃まんといふり
ゐ一右兵衛督りをくあわりれゆさひろと云
わまをそれ人の家よきさけなわとさあそうん

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

け行平の食俗なりけるー乃
わるしなりけり平の食意も少也爰のごとい
志ごとくわれハ是ひあれとなと仕事平の自
説をゐんてこそ
ゆくくれの志さにうくるく人絵なを
ゆしみまさりぬちけりも
春日さん姫ちの志ごとく色ゐんてこそ
宿のいけを
あとかくしをこむといひをまた切かおくれ
ゐひくをのさそうこねそうわて春氏乃ごとみ
仏のゆうを思ひてよめるせなんのひけはこそひと
世志ごとありけり
ひうごの数句を會席乃衣みとふなりみふひそ
志ごとといふいふこのうごさうを
ふ義といふなを
ひうーむをあわせり奇いよまさうくれと世中
をおりひとうくわくるみれなまみりて
世中をなひうんして京みをわーするのなを
やまさとうーすゐくりと志うくなりくれてよみ
てをりをる
くをりにて志りぬ要をよまん人いき乃せ常
を志ま世乃あとハ里おを勤弁して教誡れくと
をり天下の治をもいくすゐきこと也右今乃序

ちのけう井法のひけう人坂あひ
これも業平也まめり志ちよう
る歌まてうけり判釈ーそい
まえんとーー実あ人とい
てはあれ也ふりくさ乃時門仁
まつあ雨御の浅山城深鼻のこさきふ納まて
城けくまりて云也心あやあ里ーまりけん茶
ふ実要也云雅り心の至まるとりみとたち
愚見ゆは仁明時ふ文法光孝両天皇あ代中と
あるまされとをいれれれこみくもなわあ
物あるよ受をとろあこまとろあい
いやりのなみをなわ雨さふうか

古今集第十三ふ入ふ哥のこ
とは一般をと人りあひ見て
かりうふ見ーー受れまれるとーーと我りそれ
乃受ゆもんのらんとはをろめハいやとう義
事うまりさはとなりい至ハ深ぬう夜乃受
とうんよみてありもりさ風受の
業平乃自記と見てとう深近時奥とあるんり
愚見ゆはさことふけさよんいきたなれといふなり
とあそりーとう時流まれやうふもなれうさ
究なり実いあ連とを古哥乃来
ふあ乃
ひーふとなふてなてはまに有れふ人有け

古今集五ノ八ノ詞書ニ桑乃后の春宮
宮ぬ申とゝ申ける時ニ屏風ニ立田川ニ
ある所ニ紅葉ニ流れたる形ヲ書ける
のニ紅葉ニ流れてとハ書ニ及ハんと
らん　ちらやうニ形代ニ書たるハ
これな井ノ水ニ流ぬ形ニ書ハ
ある所ニ書ニ及ハぬ也ケ様ニ
えもしれぬ事ニ立田河ニ流ル
ゝ事ニ成ぬ
そよめふとあるいつまの
形ノ事細ニ心得ぬ事ニ作物語
なれとも是ニ作物語
ゝいふ事ニ有ノ
ゝいふ事ニ有ノ
ゝいふ事ニ有ノ

一さて哥の人〻を評判の要あり業平乃要ある
ひたる事あり二河あふ人おもみちれちり〳〵く
り浪乃なちたるさうい波いひうけて狩代みは
狩要ハ狩わと字と狩代りさ人へありといふる
をきりすむ〳〵なくハ今もあろまきとよめり
着尾お遊〳〵七云語道乃乃要ある也　尺〳〵昭乃たな
江河内乃春風り狩代をさりぬ花そみるさろ
ひ〳〵あくろるおとこあわをろふちそのとゆき
なりをく人伝内記よあのをろうるさるるるのれいふ
といふ人よはひなりされときうふ
をさく〳〵うすることいもひもとんや
奇ハよ海さ里なれそうのあれ〳〵なる人あんを
あるそうく〳〵てやりをめくもひくまとひりなわひく
をとこのよめる
わくなるおとこ業平也う此男乃りとなりをる女
業平乃妹なりそ乃尊ハ此事せ忠人乃り般り母
名虎う女奥観九小内記十二年任大内記能孝よそ
一切経一巻りようつ〳〵したる人乃要よみ
そ的撰定以のうされ作者也文をれさく〳〵女
乃文もまさをぬなり北方くん優也治也也
おさく志かをいなてるを優もるふん也おを
えもひ志ろれあり猫なけれとを文乃あとい
数也なとのうねくる〳〵きふまま也志はえよまうち
をまた海へりそ尊ハ此尊よめり一向り

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

さるあとさへうへく重疾いの
あふひの巻かも六条御息所
とり付いきりなくわたけるこのころ
うえ 源氏やや人は物のさけ
まてかく紀意地をはお類也
といるうれてをとこいとうめてこの面そ
はまてふえこりいまてあのお
おふをこせうえてのちはなるおれ
ぬかめきりなんみわつくひはなる男の弁はひお
らえこのめめはふくーといるるれも通の女男
おんありうへまてよみてをし
はまなてはみえこりへて秘記ーえれ御書也物まの女敏朝
乃敏りのおーて後のまもくをえ別おえよも
党者い後をうはくなりされとうまつくけされ
同後あるをーと伝説也みさいきあくー
救くりなひおもりはとひみ
分をうる面ふりをはさまる
ひ奇古今第十四りへ伝御書に萩原のと
ーゆき約足の葉平乃家すに今まうてくる面れ
里て文後のひちのをくこ葉
ふりるるをうんえわはあひ後るといありをを
実て彼女りうつうてよめふ
あわうさのんえはこふ思ひをせよおをますを

いつ心もよおくお娃うひてなくなわーき
まてなく時ハ夜いふ孫とも田うあの娘さう
やうりおなゆなわかそのりおそーまうひて
あのままるやうよるそ乃思ひよわをおたの神
ゆは彼うこすといつ俊ありみ一説みは女のん
うおかをーてなまうの男女のよくてみそま
まわーそそのそ乃衣をあうハくときなおり水
あうまされとうおそのおりひ乃ーさおといつ
ありなのいふーねとれこおたゆんへおりひよ
あすせいつ俊なり
ひーおそことをちの人紙もしめへるのりそよ
ふわや

業平乃ことをたち也女うそくまそう人於
花よりも人こうあこうなおりにはま
いはれをさおよあひんとかみ
古今集第十六哀傷乃 奇なわ作者紀茂乃
歌ハ女則なりこみくそ業平乃女とみる也要ま
んハ花よりも人ハな我あこうありさわ花をさ
きりこひんとを人をいきみこひんとそ見さわ
おうおりひれおうなるのなりぬいるり
ひーをおそうおうふ女るりそまのりと
りこよのゆりふうん見こまひるといるりの
まハおとこ
おひなまいそみーたまのあろなーん

夜みうくそこはたまむをひせよ
　　豈いあふうのたまーねの通ふよりて
そなこ我色ーくおよふおよまて我たまいよを
りつつめ和姫うくそこてまーむをむみくめよて也
人の魂なと我みくいふむをひするとてぬー
なふまーのわ思見称う兒をふ
ては　むいこをいそれとそ
そとむはまそうへれはまや仕訣をこふん論して
夜のそかへのはふむをふるりとひーよま
いひつえれるすありそれ我思ひて和姫
うくやなたれめうれふんたまも我たはふくう
あらんいはふむをひたまふ、やせめくけこふ
よんてあふなわとあうそせうの御説う　あの
さわー神社中まやへうーきんまふのをうーぬ
れふれんちそう
むーおとこやんふとなれ女のりとうなくあり
うるをとふらよやうまいふ
人のなく成たるをとふぬふ
いふふへてあやーーきんまふ
まうこんぬ人我こふうのとも
むーいはしるやらんなれ
まうこんぬ人をこふうといふまま
まうりーめくあんとあり
の通し

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

下ひりの志る——とするをとけなくう
こゆのこと歟意甚うあるをき
人うこひらるゝ時ハおたひものひとりせる
といゑるの我下ひをは今まてこひをせ——う
なうゑるこのりおうこくいこれかあとくを
おゝふてあゝんとありかくまた
ゆはあゝすいふうあとくあるをゑ——時説うへんは
こひゝるゝとさゑ常あとけうわきをりへいれ
をひふせ万葉よくれむこもとさせをよめり
又也——
意——ゐいさゝみもいゝゝおたひ
とけん我人うそまとゝ——ゝるん

ゑのへ——おこひ——ゝうゝ称こうト下ひをい
とおくゐいへるう一句よくうあんてゆゝこ
かたうゑ意しゝをゆ——ゑゝこふるうト下む
ものとをるりのあゝゑ我思ひハ法切也のなゝ仏
そをたのト下ひもくとくト——をゆうまこみう
といふ事をゑ御ちうあまゝ——いふをゑ面白お
也哥也は哥ゑ首ともうは撰集ゆ十一は入うも
○こひ——とゑさゝみをいそ——ちこひのゆ
のんをへいそまをゑゝうん
志なひものちる
——とするもゆをけなくうこのあとをんあゝ
をもわうかは拘ゑは哥みト句お遠をりみ賜ゑ
茶後也里作着は発法也めは心ゑれゑ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

面白――え方い業平乃添ふ
ひと――男袖もぬれもぬれいひちぬまる女乃あとにま
うなゐみをまも
も風ハ海士のしかなくくふり風をいとゞ
おとをぬるゝうふりみをも
古今集第十四撿人もとゝ乃奇也うとふわて
そ上ハれ折なり服ハかまわなくくそ上鶺――き漆
と左乗縄――これふり不慮覚悟のかよふひき
なるとかりすくうふりけ風にハをれ
てもへなりとふなり袖ハ人のくゝ袂ハ要もる
ハ袂ともいてゝ掘焼烟風残いふとゝもい
ぬるゝめといふハん洞遠玄なり
むら――おとをやをめみくめて
女うすてらふ時欲
なゐめ乃ともうふ
いうふみゝうふんなるらん
立文字になるうふねいひて
いふも何とやらん一首のうちよも短をもつてく
わゝきもれ也これらもまるかの袂ぬいの乃ちれ
内小兵ふ――いゐのみ兄――うきんうと志をた
里南ゐおと――海ゐうれ
なゐへ――達よ紙ゐぬ色きう
むり――仁和れみとせり川うり幸――妙ひきう
時いまいさふるみけなくおりひゐれとりとけまよ

くるすのおれハ死かたりのうひめそさまつい
せ給ひをすりうねのたりそなのおつけをく
うの勤ハ皇家興書よ仁和聖日之間と也一日
可止とあり宮家興書ハ業平卒して七ケ年後乃事なり
なり芥川行幸ハ業平卒一年乃事ゆハ此書ハ業平
あらすと云儀有あらハ作物語なり伊勢の七条
后ハ業平乃男上のうへをうとりてをとこもすへし
物語也ハ此とも五原氏ハ皇家興書ハ業平卒
乃後なれハそのよせありて書そへなり行
ふれも幸う始なり後撰集第
十五雑一ハ六乃詞ゆにて
ふり幸ふのひそう日五原行平朝臣　さの社山
見あきハゆをもう河ハ代乃ふるハあり幸
里今ものり幸ハ光孝天皇也仁明文徳清和陽成
ハ四代ハ民乃りうをおりて野行幸傳止也
光孝乃ハ代ハ再興ありうあをみけなくゆき平
六十九歳の時なまり鷹飼不似合事也りとハなま
みをくあかうひ乃才藻能ハく志賀乃なる波いふ
七日乃り幸ゆ日功者を賞をこまもりう
ときぬ後撰集第十五雑一にのわ詞也り
白鷹り井ゆくうわこぬのたりとうハうのり
う波ぬいそ幸つけ幸るとき　ふの社山ハ幸こ
ゆをりふ乃ゆ世れたりハあるりと同日

むすみちのくみうておとこ女すこくわ男ゐへ
いなんといふこのゐいとうるおきうてうまのくれむ
けをたよせんとそおおの井てまうーゐといふ而
ゐくさけのすきそまゐ
おきの井てかをやくくわをうわ
そやこーゐへのまそれなわくわ
右今ゐは物のゐの歌うま墨流乃奇ゐ小野小町
ううこなり作物語乃さ段也をきのねてを段あ湯と
奥別乃名而也を福なゐはをきすへてやくよ
わもを業平うま別中をた尖女男にすへてやくよ
もものれしれとありをきのねて居乃字うう段き
欽尖弘すゆうい君乃字弘出ゐ
むすみちのくまそはとひいめ
序ゐありぬきえうひみてといりん
とて上句をはいるうされこを
ゐこ弥をゐるくゐひさーのう
うさ段くのるゐ結まてみ
巻学てなるさ段ひうし呉
色ーとまひうーいさむさーゐといふゐと
き空家やく段のり幸社供うまのりて新ゐ
之前乃神祇上ゐ業といへくる結めくよめゐ哥此

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

物語をかきたれるも
ひさ――むかし孫王秋の
家のこゝろおもひねの歌の意乃趣は
物語乃ごとくにもむかしをしのぶひさ
よりきこえまうかよりてとうへまつる
なりもまのひえてはありひとめといふ
昨説ゆはたらないさこのうち
こゝろある説もゆひさ――とあり
物おもひなよくまりよろとうんひとをわく
業平乃身上の事をなくなる紙成たるを
すくなりへと云伝也肖字
乃一馬上より盃世紙筆執恵倍浩親平安朝心得
ひとみをみよりりの字――うひまく
文徳天皇を安元年より孫王といへとを國史みも實
録ゆもこゝに新古今ゆひ洞乃あをくに住吉より
事乃――時代のせをれとをもいはれ乃清門の行幸
とこゝにて又國史みもりね住吉ゆ
我みくもひさ――くまりのうさせみ漢天皇乃
きー乃姫松いく世へぬらん
古今集巻十七よみ人志らす
清製と云不信用業平乃歌
ハはまりひめ松妻説なりと可見也うさの心
もの松ゆくひまふんなー小松といへともうき
らんとりまり

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

なほん社のきやう——なひて
おきやうい現秋まや社社乃お
社恒吉社大明社とやいむ
究作くおれ描乃河る代のう
時ましかり作里てうひお
くらまくくわを中
中川わさはえうる川里
の志初の河社社とや地み
おうえ作くをとやい恒吉乃御社とおそれ
たまへ里を保社功里佰三鮮祇う地竹ふ時恒吉社
三社は永の当確社りおうを多ひてまつひ
なくもうきの國をもうこん海朝乃時とき桜は國

恒吉乃里り文君を博くまでいて井永やまり
更まる社功里佰おをおるくくりて井まるり
まて恒吉い四不とやー地気によりてもへ國や
浦乃那恒吉おまーなひい三坐桜は國乃恒吉い四
座のり延社社名帳み庄載ふまを社感わるにうけて地
はめ作は抄現秋也は奇を社
面社ろ多河和奇乃を別ーてもまりなまふなり
むまー究志いもう波こ川う
望さー代世よりいそおそあてき
新古今才十九社祇勅乃要よ入うひうる乃右恒
う伊勢抱よ恒吉にり幸れとおおほん社け
きやうも多ひてやもうもり撰集り此物語を引

載給るまゝ名誉ともいふ名を欲くまゝ文漁天
皇て安元年中の事といへともも國史みを実録みを
見てに新古今ものこの物語を載それをいつま
のに門の初事とを見へすいとをなかゝなれる
なり又國史みをもくし落すまゝ彼い志
くもとゝやと云んるなる竹みをきと云也
こゝかおいハ久しとといふん秘詞なわむさ〳〵お世
よわい當社垂迹のまゝ〳〵しおみ神ふる
山のこつの比のひさしき世よりと思ひうめてそれ
むう〳〵むとこひさし〳〵くむとを
なまいまもんといふをまをそまゝくも
業平此女のうへむさしと
私云ふまとも志多〳〵心もまのりちんと云
也業平此詞うれいうさと洞いたくのお遠乃
やうのりおひう〳〵男といふのふかより原くひさ
くむとををて見をふくんもおし〳〵まの里こんと女
うりいをせて給やをなるへまゝ
り則奇乃作者の父うなる
也ふくゝみ本なまゝふのりねと
えぬくゝろのうまう〳〵のもみし
古今第十四續人志ゝ乃要なりむふ女う
なへていふ也後撰みは老角色をむふとりみと
見てふ是い草れふゝなわたまいかめそいみ
ふへりみ字なりけのつゝ乃まひとつ也まと

もんうんをせさせられいこん人はせ
むかしおとこむめはかよわあまてん人の西
うわいはまとをみる
うくひすの花をめてようさわうん
ぬるめふんりきせてうんはんさわうん
催馬樂うま物をうさいとふようわてうくひすの
めぬてようさんむめみてうくひすの花
よめりむめはかよをいはんをみてうくひすの花
おぬふてぬうさもうかとよめりむみわひうち物
霊験花令乃う御所花名なわ
かへ
うくひすは花をねふてぬうさハ丹か
なりひをつけよかりてうんはん
うくひすの花をめてようさハ和をみをなし
そのうのさまれようさ枝つけてたまれさは
らはその心はー枝条をんとなりそハひみ
たるふうぬるふふなをあまいそまう射て
かりてうへさんとよそわ思ひみ尖をもあせう
なりひ枝はまよそまめくはきとりみり
妙まとふねとぬ海く我神乃うろ思ひりうハ
うねをおうれを思ひを尖ゆーてよめり
うぬんのきをうれぬれうわ思ひりあんひ
いぬのハさなん
ひうおとこちれまろうりあやもれるんう

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

契りをく事のあやまれる誓物をちかひ井たる也
山もろの井てれもみをうしむをひ
うのみつひをなむ世なわくろ
一儀の井をた大尽乃境地面白りうて井そま
新造ありて山吹ゐうへなとしてそこの水を雲をつ
我一到乃はなみも我をおりひ出さんこのみへまて
見よ歌をうしてそんせんといるり後りく
みれともそのけ乃んのおこ
をおりひ出てよめふやや大和物語ひうと
祢りなりをう人おほものみてくゐひよやま
との國りくさをうくわいそといふわうに
きよおなる人乃家うり女とも
うのつく人詠みるおさそをけなれいとおなりけ
う我いさきかとりそなをそ里ひちこのあ
乃いとおなりけなわをまた乃め我やくめてそれこ
うちいてこといひまはひ女うきあわちあく
てそるうりいとれうをりくれハゆめみとを
とこ一竹ふふまうりあひたまへ物おきふふ
まう海りんなとうまのうあひてあれを
うさみ一竹へとそをひ我ときてくを巻りさ
てうの志うをうおひ我ともてそとてもうけ
ふふうひさゆひをりうせていねこのると
六七りのりくわ什男色こ九
はいふよのんおまをう竟をこれみの志を思ひ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

をもちゐ男いたやうに思ひ
そのわ有て又おのれはちいと
いくとて井てれわるわかやと
あのきるそ重よあくむ女と
ぎいひや出てい〳〵へをす
むり〳〵男のわけの深草まで
おなかくまやなひきんかのう
とを重く住く里をいてくいか
いやく〳〵ふう草野とやなりおん
古今集第十八業平朝臣とわる
へて住ん——ふを出ていなと
盛なりんとすてくけりちの
みこうんさ——孫勝也　わまわ
あれまりて法おん露のタく
おんなぬ——
野せなりはうちとなりてゐる
うりなよ盛と思いこさくんん
古今第十八後人ふしの哥也野とやなりうんと
いふり答てのとあくへしう
里そめおを立よ荘ねるハよもあくー空也物乃
家ふみふいわ海ー兵うわうめれんるう遊有春魂
化為燕幸今恵入未央棟といよ
その色乃秋風ありきみく
まの里とよ処り後恨の哥を住く秋風りり

天福年之奥書云

業平朝臣　三男弾正尹行保親王五男　平城天皇
子　母伊豆内親王桓武第八皇女母南子従二位し
薨卒　等月日任右近衛将監　兼和十四年正月補蔵
人　嘉祥二等正月七日従五位下　貞観四年正月七
日従五位上　仁寿二月十日右兵衛権佐　六年三月
八日右近少将七等二月九日右権少将十一等正月七
日正五位下十五等正月七日従四位下貞観元等正月
十五日右近権中将十一月廿一日従三位　二等正月
十一日如模権守三等十月廿六人以四等正月十一日
叙従三位　母正五位下　蕃良女継女

兼和九年十月薨　時一歳
行平　仍保覩王一男
天長三年　仲平　行平　常平　業平賜姓名左
原朝臣兼和七年正月叙人十二月辞退次日従下
同十二月二日従五上任左兵衛佐五
月右近少将仁寿三年正月四位周
幡守四年兵部大輔天安二年二月中務大輔四月左馬
以三年正月幡广守貞観二年六月内匠頭八月廿六日
左京大夫四年正月信濃守同月従五上五年二月大蔵
大輔六年正月十六日従前権守二月八日叙正四位下
八年正月四位下十年五月薨
月十三日参議五十三廿六日左兵衛督十四年八月廿

一月叙人頭十五年従三位大宰帥元慶元年治部卿
十月十四日別當六年正月中納言六十五八年正三
位勲四仁民和元年按察同三年正月薨
平文等薨
紀有常
兼和十一年正月十一日右兵衛大尉蕃祥三年正月二
日右近将監四月叙人々月十七日転近江大掾仁寿元
年七月廿六日蕃左助十一月甲斐介従五位下二年二
月廿八日蕃但馬介三年正月右兵衛佐四年正
月十六日転讃岐介兵衛二年正月従五位
上同十月廿日左近少将天安元年九月廿七日蕃少納言
二年二月廿日蕃肥後権守貞観七年二月九日任秋効

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

權大納言正二位下野權守藤原朝臣雅樂頭從四位下十九年正月廿三日敍二品
二条后甲一納言尤来門替陸奥守如故
女紀伊守総継女
貞観元年十一月廿日従五位下　五節舞妓同八年十
二月廿日宣旨九年正月八日従五位下十年十二月廿
六日生第一皇子廿七帝　御年十九
十一年二月立為皇太子十三年正月八日従三位元慶
元年正月三日即位日立為中宮職　六年正月七日
為皇太后宮職　寛平八年九月二十一日傳位第五皇子
十二月薨　六十九天皇六年　五月遷被后位

河原大臣幡　嵯峨第十二源氏
兼和名年十一月廿七日正四位下元服日六年壬正月
七日従三位九年九月已実近江守
出羽守如元
出羽二月右近中将兼作守
従三位五月右兼民部卿仁寿元年八月兼伊勢守前祥三年　正月七日
元年九月任参議右兼民部卿春宮権大夫
如元

万葉集第十八

難云こよなくと云事と
聞くようにおうへそれをいかん
天暦帝

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

よしをやそれをよみ人をなし

案ずるに
素賀幹之醸宴分志解泰而罷
曹子建洛神賦
環湊數逸儀靜罷閑
みやひこやひとりとうるはしみ
うれしみやひこのいへなとい
かゝるこゝろなる事欤

天福二年正月廿日己未申剋渡門之事
之平遂以書字為授爵愛之孫女也

同廿二日按察

世間流布之本奥書端裁之詞略之其奥也之次云
三代実録云元慶四年五月廿八日辛巳授四位上
右近衛権中将兼備前権守在原朝臣業平卒業平著放
縦不拘細行略之其奥也之次云
仁和元年正月七日甲午叙二位行中納言兼
常也仍保親王第九子正三位行大納言兼
三年親王上表曰兼忝為皇親且之男女先俾王号賜姓
行姓尼之恩未預改姓既為異第之子寧異衆列之矣
於是詔仲平行平守平等賜左京職四年二月授従五位上

- 桓武天皇
  - 奈良帝　才三三品弾正尹　贈一品
    - 平城天皇　阿保親王
      - 大江音人
      - 在原行平
      - 在原守平
      - 在原業平
      - 在原仲平
      - 才不詳 滋春
      - 棟梁　布少將從四上　為高階茂範子孫見被流高階峯緒為子
      - 元方
      - 師尚　母斉宮恬子
    - 嵯峨天皇　仁明天皇　文徳天皇　清和天皇　陽成天皇　母高子
      - 淳和天皇　西院帝
      - 崇子内親王　仁品
      - 深草帝
      - 小松帝　光孝天皇　母順子
      - 人康親王　才　山科宮法名法姓
      - 惟喬親王　母紀静子右虎女
      - 惟喬　才四水尾帝
      - 恬子内親王　才六　斉宮　母同惟喬
      - 貞数親王　才七　母行平女
      - 貞観元十六五下定
      - 貞観十三五六子二才
      - 文徳　母ウヘノ田邑帝

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

文章二月辛亥朔依敕辛還左近權少將尋還右馬助
累加勲四位下元慶元年還左近權中將如故
仍摸權守以還重畏濃權守四年財辛五十六

賀陽親王
女才四三品
伊豆内親王
天皇異腹ク後為尼
左大臣藤内麿二男
日野九祖三木刊ノ卿
真夏 從三
濵成 民ノ父補
從五下
三木左大弁
家宗
近衛大将
三木三木兵ノ中納言
宇合
年ノ
蔵麿 縄継 吉野
才十五正三 左京大夫 左馬允 能登守 從五上
源定 大納言 才二十 從四上 正六上
至 挙 順
源忠 私才十二正説也
蔭 相模守 從五上
弘 世山蔭ノ女
大和伊与守 木工ノ
継蔭 世同
女子 伊勢
謙徳ノ 後少将 木大 三木 太宰帥 左京大夫 富内大納言 夜鶴抄作者 式内權大納言 神祇伯從四下 桑漆守 從五下 識子内親王 皇后宮亮 清和天皇更衣 伊経
伊尹 義孝 行成 行経 伊房 定賓 定信 伊行 女子
三卿ノ内権跡
世尊寺系圖
行経書写ス入
蓮花門院 右京大夫

内麿 真夏 月野家祖
後長岡朝太政大臣 左大臣閑院贈太政大臣
冬嗣 長良
木中左衛門督 贈太政大臣
国経 頭大納言正二 藏按察
昭宣公堀川太政大臣
基経
昭宣公
女子 二条后 皇太后従三位
時平 本院
母紀伊守総継女
仲平 桃園左大臣
貞信公
実頼 小野宮
忠平 師輔
貞信公
女子 宇多后 伊勢作此宮歌 号七条后
温子
女子 大皇太后又号五条 清和女后 号陽殿
常行 大納言右大将 正二
良相 仁明后 文徳母 号西三条右大臣 三ノ
良房 号染殿 号白川太政大臣 忠仁公
女子 多賀幸子 文徳女御
女子 貞観十三九十八崩 薬安祥寺
寛平九七十六中宮昌泰二 七十三皇太后延喜七六八崩于東三条
貞観十九閏二十七中宮元慶六正七皇太后天皇九眼 日八年二四崩内裡辻子第院
寛平八九十二廃后延喜十年十二月薨六十九
天慶六年五月追復后位
高子
貞観十九閏二十七中宮元慶六正七皇太后天皇九眼 日八年二四崩内裡辻子第院
寛平八九十二廃后延喜十年十二月薨六十九
天慶六年五月追復后位
明子
天安二十九中宮清和即位曰貞観六正七皇太后天皇九眼月依祖母也
昌泰三閏十二十三崩
順子 三ノ
兼和十二正七女御從二善祥
三四七中宮仁寿四十六皇太后貞観三十九入道

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

合多年不勇捨也可依況年近代訳物使事為端之
年出乗来代之人今案也文不用之
此物語古人之説不同或称左中将之自記或権伊勢
之筆作祐按此有書落之等上古之人跡不可尋之
作者只可就詞花之歌而已

戸部尚書判

此物語乃物出等比あるいはなるべくは世をのくも記するりこの
うちまろぶへまよりあり一こきは後あとをそひく
うち好りなるあよそりとろりのみさ一もまわに
りよはされば六三光院関村そのうんとろうよ一志て
あろ一長世といふ而みく御簾天暗し字書改り
みくまわ一をそいそんへるそれ行里乃厳命より
うあ祇文現翠行宗も道遠院へ硬字せ一を惟
清朴とみつけ給わ一則三勘文
きあへよそんあり志うハをろかあるんようと乃
やうあひきわせてろる一つけ給ふ称うの講義
嵐雲院へ大学も准后義後聖護院准后道増玉ふ家若

別宮 95 29

紹巴なとまいりてうけ侍りしを初と
して愚見肖ざまの清抄をあつめ
ひてあれ共用捨をしむ編諸ノ多字闕疑抄云
其條部寡をといふをよて闕疑
とはそれんものれりやうすやといふをきゝのか
千時文祿五年仲春十四日
法眼玄旨 在判

此闕疑抄遠祢先新作ニ不也自筆之
之眼侍ルトの奥書ニ元亀弐字注紹巴
なも第二孟冬十五日
也足雙素絖 在判

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45　ガラス使用

別 9
29

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用